

## 地域おこし協力隊通信

第4回



今月のリポーター:

佐藤彩希隊員



こんにちは！佐藤彩希です。8月は驚くほど暑い日が続きましたね。「こんな暑さ、耐えられない！」なんて思いながらも、初めての潮来祇園祭に3日間参加しました。不器用ながら踊りにも挑戦し、山車まで曳かせてもらいました。

3日間全力でお祭りに取り組んだ人が風邪をひくことは珍しくないように、例にもれず私も見事に夏風邪をひきました。倦怠感、せき…。そんな弱り切った私の体を元気にしてくれたのは、やはり「食」でした。

知り合いのいちじく農家さんが「収穫の手伝いに来てくれたら嬉しいな」と連絡をくれて、早朝6時、農園に到着。1時間ほど作業をしたあと、もぎたてのいちじくで水分を補給し、お土産にトマト、きゅうり、なすなどをいただきました。それらの夏野菜をふんだんに使ったカレーを作り、極早生米「一番星」と共に食べると、あら不思議！見る見るうちに体が元氣を取り戻します。いちじくには整腸作用もあるそう、心なしか体が軽くなった気がします。

潮来産のいちじくは道の駅いたこで買うことができます（期間限定）。ただ、日持ちしないので出会ったらすぐに購入してできるだけ早く食べましょう。まだまだ暑い日が続きます。しっかりと食べて元気な毎日を送りましょうね！

## まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

## 潮来市の誇れる自然

第45回

今年の夏も全国からたくさんの方々が集まりました！

私たちの施設では、毎年夏になると全国から多くの大学生が集まり、霞ヶ浦・北浦とその周辺で水質や生物、地質、湖沼環境問題などについて実習を通して学びます。今年もたくさんの方々のみなさんが集まっています。今年の実習シーズンのスタートとして、8月の4～6日に、静岡県常葉大学教育学部の方々が、高速バスを乗り継いで来てくれました。

常葉大学のみなさんは、「地学実習ツアー」として、北浦の周辺で体験し観察できる様々な地学について学びました。初日は、私たちの施設から近い場所での地層の観察を行い、この場所がかつてどんな場所だったのか、どんな生き物が住んでいたのかについて思いを馳せました。地層をじっくり観察するのが初めての学生さんも多かったのですが、徐々に地層の様子の見方が分かってきたようでした。二日目は、

船で北浦に出て、湖の底にある泥の採取を体験し、その泥を施設に持ち帰り観察しました。泥を顕微鏡で観察すると、その中には珪藻と呼ばれる小さな生き物の殻がたくさん見つかりました。三日目は、私たちの施設の周りを散策しました。北浦周辺の地形には、数千年～十数万年という長い時間で起きた出来事の痕跡が残っています。こうした土地の成り立ちや特徴と、現在のその土地の用途が密接に結びついていることについて、散策しながら学びました。

今回参加してくれた常葉大学のみなさんは、学校で理科を教える先生の方です。北浦周辺で学んだことを、将来の理科の授業などで活かしてもらえればと思います。

茨城大学広域水圏環境科学

教育研究センター

山口直文



厳しい暑さのなか地層を観察



船上調査を体験



散策で訪れた「大生の思井戸（おおうのおもいど）」